

第二回館山市議定会定例会議録（第三号）



一、昭和五十四年六月二十一日（木曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一番 神田 守隆 二番 石井 謀

三番 網島 憲治 四番 横溝 功

五番 福原 勳 六番 鈴木 活龍

七番 古賀 礼四郎 八番 石井 昌治

九番 松下 正己 一〇番 穴戸 寿夫

一番 林 豊 一二番 栗原 一雄

一三番 近藤 好雄 一四番 渡辺 昭夫

一五番 伊藤 幸太郎 一六番 押元 稔

一七番 黒川 平治 一八番 流山 源次郎

二〇番 石井 武敏 二一番 吉田 勇治郎

二二番 藤田 益治 二三番 菊井 敏博

二四番 和田 一郎 二五番 五十嵐 昇

二六番 伊賀 多朗 二七番 石井 正

二八番 安沢 徳順 二九番 安西 益男

一、欠席議員 二名

一九番 石井 輝久 三〇番 山口 康

一、出席説明員

第二号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十四年六月二十一日午前十時開議

日程第一

議案第三十号 館山市国民健康保険税条例の一部を

改正する条例の制定について

議案第三十一号 館山市青年館の設置及び管理に關す

る条例の一部を改正する条例の制定

について

議案第三十二号 館山市市営住宅の設置及び管理に關

する条例の一部を改正する条例の制

定について

日程第二

請願第一号 城山公園にバス道路の開設と公園入

口に標識設置の請願書

請願第二号 観光客誘致のため沖の島周辺整備促

進に關する請願書

開

議 午前十時三分開議

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数二十八名、これより第二

回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開き

ます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第一、議案第三十号乃至議案第三十二

号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。

(二〇番議員石井武敏君登壇)

〇二〇番(石井武敏君) 私は、議案第三十号から三十二号に至る議案に関しまして、通告してあります問題を質問申し上げるものでございます。

まず、議案第三十号につきましては、地方税法の第七百三条の四の四項の改正は本年の四月一日から施行されているものであります。その国の改正に基づいて当市においても課税限度額を十九万を二十二万に引き上げようとする条例改正であります。この条例改正の背景となるものは、もちろん医療費の上昇、または被保険者の所得の増加であります。この医療費の上昇を前年対比で見えますと二六・八%の上昇率になってきております。確かに応能負担面からの被保険者間の負担の均衡を図るためにはこのようになるかもしれませんが、地方税法の七百三条の四の四項の規定は目いっばいの限度額を示しているわけでございますので、各地方自治体でどこまでを最高限度額とするかは取捨選択できるわけであります。その点最高限度額を二十二万にした理由を御説明願いたいと思います。

また、今回の定例会提案説明のページに示されておりますように、五十三年度の国保会計は五月三十一日出納閉鎖されて、その結果六百三十八万円の差引残金を生じたわけでございます。が、国庫支出金等の二千五百万と合わせて余剰ができた理由を示していただきたいと思ひます。

この差引残金につきましては、過去も同様な形で決裁をされて

いるようですが、過去の事例を見ますと、金額的に見ますと、五十年には八千三百六十六万円、五十一年度には七千三百三十万円、五十二年度には七千九百九十万円、それぞれ差引残金が出ているわけでございますが、今年度の特徴としては特に一月から三月までの医療費の伸びがなかつたというところが顕著にあらわれているわけでありまして。単に暖冬でかぜ引きが少なかつた、とばかりの理由ではないように考えますので、そのへんの分析をどのように当局ではやつておられるかを御説明願いたいと思ひます。

また、提案説明の中には、国庫支出金と差引残金を合わせて八千六百万円を税の軽減に充当すると述べられておりますが、この税の軽減という言葉の持つ意味は、館山市民の一人として最近の物価高の折から何かほつと安心するような、ほつと胸をなでおろすような感じのする言葉でございます。はたして、この税の軽減というものが市民の側にとつて具体的にどのように反映されているか、どのように期待できるか、そのへんにどのような見解を持っているかを説明を求めるわけでございます。

それから、議案第三十一号につきましては、青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定に關しまして、今後の青年館の設置計画はあるかということ。

また、青年館は現在どのように活用されているかという質問でございますが、この青年館の設置は、県におきましては県内一千館を目標にしまして始められた事業であるように伺つております。この計画の当初の目的であります一千館はすでに昭和五十年に完了しておりますし、五十一年から五十五年までの計画としては県内百五十館が目標になっていると聞いておりますが、そこでこの

青年館の設置の当初の趣旨、青年館の持つ意義については、当然青年の育成とコミュニティの場として、あるいはその他の青年活動、青年の地域活動としての拠点としての意義があつたわけでございませう。最近に至つてはそれらの趣旨が薄らいできておりますし、公民館と部落の集会所と青年館との使用目的に区別がなくなつてきているのが現状ではないかと思ひますが、これは青年館設置の際の予算の配分にもその理由の一つがあるわけですから、たとへば県から八十五万、市から八十五万、それと残金が地元の寄付金によるものであります。そういうように総額の約三分の二程度は地元で頼つてゐるという理由によつてどうしても地元の利用目的が維多なものがありますが、この地元の利用を最優先してしまふ傾向が強いわけです。

そこで、青年館の持つ独自の活用の仕方について、そのへんの見解をお伺ひしたいと思ひます。

それから、議案第三十一号につきましては、これは館山市の市営住宅の設置条例の改正に關しましてでございますが、これは今後の市営住宅の建設計画はどうか。これは簡単に結構でございます。

また、市営住宅周辺の整備はどのように進められてゐるかという質問でございますが、特に市営住宅の周辺の生活環境の整備について、たとえば自転車置場、遊び場、集会所、排水路等の、いわゆる市営住宅に付帯する設備整備計画はどのように進められてゐるのかお尋ねしたいと思ひます。

以上、よろしくお願ひいたします。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

御質問の第一点は、地方税法七百三条の四の改正により、十九万円を二十二万円の最高限度額にした理由という御質問でございますが、御案内のとおり国民健康保険税の課税限度額は昭和五十三年度におきましてはそれまでの十七万円から十九万円に引き上げたところでございますけれども、引き続き医療費の上昇、被保険者の所得の増加が続いてゐること等にかんがみまして、現在の限度額十九万円を据え置いた場合には課税限度額で課される世帯が増加することになり、課税限度額以下で課税される層、特に低所得者の負担が増加することになりますので、課税世帯間の負担の調整を図るため課税限度額を引き上げることとしたものでございます。このような趣旨で地方税法が改正になりましたので、館山市国民健康保険税条例の第二条の課税限度額を改正しようとするものでございます。

御質問の第二点は、昭和五十三年度国保会計が六千二百二十八万円の残を出した理由ということでございますが、五十三年度歳入予算十五億三千四百八千円に對しまして、収入済み額が一・七%の伸びで十五億五千七百十四万三千円となりました。額で約二千六百九万五千円の増収がございました。一方歳出面におきましては予算執行率九七・七%でございましたので、不用額が三千五百二十八万九千円となりましたので、その両方の合計で六千三百十八万四千円の差引残が生じたわけでございます。御指摘のように、特に歳出においては本年一月から三月の暖冬による影響が医療費支出の減少につながつたものと推測するものでございます。

第三点の国庫支出金の増収につきましては、国保の特別会計につきましましては、歳入におきまして国、県等の支出金が約六〇％を占めておりますので、必然的に国や県の指導を受けて予算が編成されているところでございますけれども、今回の国庫支出金二千五百万円の増収につきましましては、財政調整交付金のうち普通調整交付金につきましましての見直しを行なつたものでございます。すなわち、当初予算編成におきましては県の御指導がございまして、五十三年度交付見込み額の八〇％でございまして千六百九十六万五千円を計上いたしました。交付額の確定に伴いまして県と協議の上、交付額の八〇％である四千二百六十四万五千円との差額のうち二千五百万円を増収として見込んだわけでございます。

御質問の第四点、八千六百万の税の軽減は市民の立場からどのような期待ができるかという御質問でございますけれども、御案内のとおり当初予算におきましては一世帯当たり八万五千五百五十八円、一人当たり三万三千七百七十四円といたしまして予算計上いたしましたわけでございますが、本算定に際しまして八千六百万円を税の軽減に充てることになつたわけでございます。一世帯当たり八千九百八十九円、一人当たり三千三百八十円の税の軽減を行うことができたわけでございます。これで、本算定時におきまして一世帯当たり七万六千五百六十九円、一人当たり二万六千九百九十四円となつたわけでございます。その分だけ被保険者の負担の軽減が行われたわけでございます。

議案第三十一号の青年館の設置に關連する御質問でございますが、市の長期計画として毎年度一館ずつを建設を予定しているわけでありまして、その設置個所につきましましては地元負担という点

もございまして、地元の要望によりましてその都度決定をいたしているわけでございます。ただし、昭和五十五年度で県の五カ年計画が完了いたしますので、その時点で県におきましてこの事業を検討するということでございます。それに伴いまして市もいたしましてもそれに対応する策を考えなければならぬというふうに考えているわけでございます。

青年館がどのように活用されているかという御質問であります。各地区による事情によりましていろいろ利用のされ方が違いますけれども、いずれにいたしましても青少年関係を中心にして利用をなされておるわけでございます。五十三年度の実績を見ますと、現在三十九館ございますけれども、延べ利用日数は五千三百五十日、一館当たり百四十一日の計算になるわけでございます。それから延べ利用人員は九万五千九百九十四人でございまして、一館当たり二千五百二十四人が年間利用をしているということになります。

どうも青年団体の利用よりもその他の利用のほうが多いんではないかという御質問もございましたけれども、九万五千九百九十四人の延べ利用数のうち、内訳を申し上げますと、青少年関係で三万三千四百五十三人。でございますから、約三分の一は青少年関係で利用されているということでございます。婦人関係が一万五千四十人、老人関係が九千九百五十四人、町内関係が二万二千七百五十三人、その他が一万四千七百七十四人ということになっております。やはり設置の趣旨に十分沿つた利用ができていますというふうに考えているわけでございます。

議案第三十二号の市営住宅の設置条例に關連いたしまして御質

間でございましたが、今後の市営住宅の建設計画につきましては、昭和五十三年度に引き続きまして昭和五十四年度におきまして一棟中層耐火構造十六戸建てのものでございますけれども、その建設を計画いたしているわけでございます。昭和五十五年以降の建設につきましては用地の確保が地価の高騰により困難になつてまいりますといった問題もございまして、適当な用地を探しまして建設に努力をいたしていきたいというふうに考えております。

なお、基本的には、国の施策といたしまして、一団地を形成しております公営住宅につきましては、耐用年数が経過次第逐次中高層耐火構造住宅に建てかえ計画をするよう指導を受けておりますので、当市におきましても耐用年数の経過時点におきまして検討をいたしてまいりたいと考えております。

次に、市営住宅周辺の整備はどのように進められているかと、御質問でございますが、この点につきましては昭和五十二年におきまして笠名団地内道路の舗装八十八メートル、昭和五十三年度に笠名団地周辺道路の舗装二百六十九メートル、大賀団地内舗装百五十メートルを実施してまいりました。また昭和五十四年度におきましても大賀団地の周辺の道路舗装百二十メートルを計画しておりますし、萱野団地内には児童遊園を目的として遊具の設置を計画しております。このようにして逐次環境整備を図っておりますが、今後とも環境保全に努力いたしていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○二〇番（石井武敏君）　ただいま御説明を受けただけでございます

すが、国民健康保険に關しましては限度額を十九万から二十二万にした理由につきましては、二十二万にしなければ、いまの答弁からしまして、逆に低所得者に対してしわ寄せがくるというように説明があつたように思いますが、ですから二十二万にすることは非常に適当だというような答弁だつたと思ふんです。そこでお尋ねするんですが、低所得者と所得の多い人、この応能割り、応益割りの案分率についてちよつと御説明願いたいと思ふんです。

この案分率は、議案説明資料の中の六ページに載っておりますが、この案分率につきましては所得割りと資産割り、資産能力、所得能力のある人の割合、応能割り。それから被保険者の均等割り、世帯別の平等割り。この比率でございしますが、これを見ますと応能割りのほうが五六・四％となつておりまして、応益割りのほうが四三・六％となつていまして、この比率につきましてはいろいろと各地方自治団体違ふと思ふんです。五〇％ずつに割つて五〇％のところもあれば、いろんな分け方があると思ふんですが、当市としてこういうふうな分け方をしている根拠についてお尋ねしたいと思います。

他市ではいろんな分け方があつて、もう少し応能割りのほうが多いところもある。これは所得の多い人にやはり多少依存していかなければならぬ、所得の少ない人が。そういう趣旨から、そういう傾向のあるところもあるようにございしますので、当市があえてこの案分率を採用している理由、根拠について御説明を願いたいと思ふわけでございます。

それから、青年館につきましては、青年館の活動利用数は、青





つてゐるわけですが、これに対して市長はどういうように考えておられますか。

なかなかこれは実現しないし、いつまで待たうらいのか、あるいは昭和五十四年度の予算にも予算化にならなかったというように聞いておりますし、地方自治体にこれを先取りしてやれといつても無理な話でしょうが、これは国の決定をまつ以外にないかもしれません。しかし、国民健康保険そのものを、そのままいいかという、そうはいかないではないか、現実的に。

そこで、また一つお聞きするわけですが、たとえば一般会計からの繰り入れですが、これも非常に賛否両論あると思うんです。

これは国民健康でなくて社会保険に入っている人たちから、一般会計からの繰り入れをやる、一般税をどうしてそつちのほうに繰り入れるのか、われわれは二重支払いということになるんじゃないかという批判が出てくるのもまた当然と思いますが、しかし抜本的な政策的な改革を行う以外にないように私は思います。国保の赤字の解決、年々上がる国民健康保険を整備するための施策、対策というものは、もつと広い大きな立場からとられなければならぬものだと思つていますが、その点、たとえば一般会計から繰り入れをしている市は県内に何市あるかお尋ねしたいと思つてます。

社会保険の人々が、いわゆる一般会計からの繰り入れに対してそんなにたくさん繰り入れするようじゃ困るという批判の起こらない額という、大体どのくらいの金額が見込めるものでしょうか。そろそろ当市としても一般会計からの繰り入れを余儀なくされているような状況にあると思つてますので、具体的に、批判が起

こらないような額というところのどのくらいの額が考えられるのか。あるいは市長としてまだまだ繰り入れは、独自でやるべきだから当分考えないということなのかどうか。そのへんのお考えをお示し願いたいと思つております。

○民生部長（鈴木 力君） 一般会計の繰り入れの状況でございますけれども、県内の二十六市の状況を見ますと、五十三年度におきましては十六市繰り入れをいたしております。五十四年度につきましては、予算上でございますけれども、やはり十六市が予定されております。

○市長（半沢良一君） 石井議員の御指摘のように、国保会計現在大変各地とも非常な苦境に陥つておりまして、保険税あるいは保険料が非常に高騰しているわけでございます。これは御指摘のように現在の日本の医療保険制度そのものの矛盾からくるものでありまして、この抜本的な医療保険制度の解決を図らない限り解決できない問題であると思つております。

この点につきましては、全国の市長会におきましても長い間強く訴えてきたところでございます。先般行われました全国市長会におきましても決議案をいたしました。これを政府関係機関に強く訴えてきているところでございます。

政府におきましても、この問題解決のためにいろいろ努力いたしているわけでございますが、昨年の五月二十六日の第八十四国会におきましてこの改正を提案をいたしましたわけでございますけれども、全然審議に至らずに継続審議になつております。

今国会におきましても、審議に入らず終つてしまつたわけでござ

ざいまして、それというのも、いろいろ大きな問題を抱えておりますだけに、各それぞれの階層、団体等の利害が相反しまして国民的なコンセンサスを得られるような法案ができ上がらないというところに大きな原因があるように思います。

そういうわけで、国会における正式の場で審議が行われませんので、各党それぞれどんな点に問題点を持つているのか、審議は行われていないわけでございますけれども、社会党、公明党、民社党等におきましてそれぞれ反対の文書といったものを出しているわけでございます。自民党の中でも必ずしも意見が一致していませんというような実情でございまして、なかなか抜本的な解決に至る道は遠いのではないかと考えているわけでございます。

そうした中で、医療保険制度の矛盾の最終的にそのしわ寄せが国民健康保険にまいってくるわけでございます。特に老人医療の無料化によりましてその負担が増大してきているわけでございます。現在の館山市におきましても一〇％の老人の医療費が国保の支払い医療給付の三〇％に及ぶというのが実情でございます。そういう観点から老人医療の別建てをかねがね運動をいたしまして、政府におきまして前小沢厚生大臣のときにその法案を成立いたしましたして解決を図ろうとしたところでございますけれども、そして五十四年度から実施をいたしたいという考え方であつたわけでございますが、それも現在日の目を見ない、そうした状況でございます。

そういう中で、館山市の国保会計は極端にといいますか、毎年二〇％くらいの増、そのくらいの増になるわけで、それだけ市民に負担をかけているわけでございます。

国保会計の本来の趣旨からいきまして、私はあくまでも独立会計で、一般会計から入れるべきではないというふうに考えております。従来もそういう説明をしてまいりましたが、これだけ矛盾が極端にあらわれてまいりますと何らかの手を打たなければならぬんじゃないか、そういうふうに考えているわけでございます。

先日、いろいろ各保険との割合、夫婦二人で子供二人いる年収三百万程度の人はそれぞれの保険に入ることによつてどれだけの差ができるかというように調べてみました。政府勸奨の保険とか、あるいは公務員の保険、地方公務員の場合、いろいろ調べてみましたけれども、どうもその差があまりにも大き過ぎます。もしそれを同じようにするにはいま国保へ市の会計からどれだけ出したらいいか概算しますと二億五千万程度を一般会計から繰り出さなければ市民の平等の負担にならない。概算でございますけれどもその程度の数字が出てまいります。

これは、なかなか市としても負担に耐えられるところではございませんので、一体どの程度出せるのかというのは、またどの程度出すならばほかの医療保険に入っている方々の不平がおこらないのか、その程度ならやむを得ないという納得が得られるのか、大変むずかしいところでございますけれども、いずれにいたしましてもそういう矛盾を抜本的な国の医療制度の改正を待つていふということとは、これ以上この矛盾を館山市の国民健康保険会計の中で激化させるわけにはまいらないというふうに考えておりますので、何らかの一般会計からの繰り入れを今後検討しなければならぬんじゃないか。その額がどの程度までは適当かということについては、財政状況ともならみ合わせて検討したいと考えて

いるところであります。当面一般会計から今年度の予算で繰り入れすることはむずかしいと思いますので、一応調整基金といったようなものでその解決策が——多少でも負担の軽減が図られるか検討をしているところでございます。

大変まとまりませんでしたけれども、いま私が考えている基本的な考え方について申し上げ、御答弁といたしたいと思います。

○二〇番（石井武敏君） 私、質疑も三十分を超えましたので、このへんで打ち切りたいと思いますが、一点だけお尋ねしたいと思っています。

国民健康保険会計の県内の状況をお調べになつたようなところがあるようなので、お聞きするわけですが、最高どのくらいの額が繰り入れられているか参考のためにお聞きしたいと思いますが、これは人口の比率によつていろいろ差はあると思いますが、できれば人口数と最も多く繰り入れている額がわかれば説明願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 一般会計の他市の繰り入れ状況でございますけれども、額で多い市を申し上げますと、市原市が二億三千万円、五十三年度でございますが繰り入れをしている状態でございます。人口でございますが二十万五千人でございます。被保険者数が六万五千三百余人でございます。

そのほか、市川市が繰り入れ額が二億二千七百五十万、人口につきましては三十四万五千五百八十八名、被保険者数九万五千九百人あまりでございます。

○議長（石井 正君） 次、一番議員神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 質問いたします。

ただいま二〇番議員さんから質問されたことにだぶりますので、非常に簡単に質問いたしたいと思ひます。

今度の国保税の値上げということで、二六％という大幅なわけで、こういうことが続いてきた。そしてまたこういうことが続くということは、もはやもうこれ以上続けることはできないということは非常に明白だろうと思ひます。

そういう中で、これまで渡辺軍治郎前議員がたびたび一般会計からの繰り入れということで問題を提起されてきたわけでありすが、それに対して従来市長は相互扶助の原則という中で繰り入れはしないということを言つてきたわけでありすが、現在二〇番議員さんの御答弁の中でこの問題について検討するということでございますので、ぜひともこの問題についての抜本的な解決を図る中で、とりあえず一般会計からの繰り入れということを進めていただきたいというふうに考えます。

また、これまでたびたび指摘してきた問題であります。国保会計の中で医療費以外の負担を行っているわけですが、たとえば葬祭費や助産費ということで、これなどについてはとりあえず健康保険会計からはすすかする必要があるし、あるいはそれに相当する分をとりあえず一般財源から繰り入れするということも必要ではないかということで、この点一点だけについて質問いたします。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 助産費及び葬祭費につきましては、従来も御答弁申し上げてきたわけでございますが、助産費については国

の補助金もございまして、また葬祭費についてはやはり社会福祉的な意味もございしますので、従来どおり続けていきたいと考えております。

○一番(神田守隆君) ということは、一般財源からの繰り入れについては応じられないということとあります。従来どおりというのは、そういうことですね。

○市長(半沢良一君) 一般会計からの繰り入れにつきましては、先ほど石井議員に御答弁いたしましたように、これだけ医療保険制度の矛盾が激化した以上、これは国の抜本的な解決策を講じてもらわなければなりませんけれども、それを待つていられない状態ではなからうか。そういう意味で一般会計から繰り入れを考えたいというふうに考えるわけであります。

神田議員のおっしゃるように、葬祭費は抜いて、一般会計でまかなうということも、国保会計の中に一般会計から繰り入れることによって解決が同時に図られることだと思えます。

○一番(神田守隆君) 大きな抜本的な改正の中で、そういう問題について考えていくということとあります。ということで、今年度のこの改正の中では残念ながら入れることはできないということとございしますので、市民の負担をどう少なくするかということが肝要であるというように考えますので、本年度については残念ながら繰り入れはしていただけないということとございしますが、抜本的な解決の方向に向けて努力をしていただきたいということ、質問を打ち切ります。

○議長(石井 正君) 以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で質疑はございませんか。——御質疑なしと認め

ます。

以上で質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

○議長(石井 正君) ただいま議題となつております議案第三十号乃至議案第三十二号の各議案はお手元に配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

#### 請願書の上程

○議長(石井 正君) 日程第二、請願第一号城山公園にバス道路の開設と公園入口に標識設置の請願書及び請願第二号観光客誘致のため沖の島周辺整備促進に関する請願書を一括して議題といたします。

請願書の朗読を願います。

(書記朗読)

#### 請願書の趣旨説明

○議長(石井 正君) 朗読は終わりました。

次に、本請願書について紹介議員の説明を求めます。

(二五番五十嵐 昇君登壇)

○二五番(五十嵐 昇君) 請願第一号について申し上げます。

城山公園は里見氏の旧城地で、この地に里見城を再建し、往時に匹敵する城郭を建立することは、館山市民の等しく渴望するところであります。

しかるに、現状においては大型バスの駐車場なく、道路も狹隘

なるため大型バスの進入は極めて困難の現状にあり、国鉄観光バスすら素通りの現状にあるのでありまして、これは館山唯一の貴重な観光資源の城山が死物化している実情であります。

したがって、里見史料館の建設の前提といたしまして、まず第一に大型バスの進入道路と駐車場の新設は緊急要であるとともに、現在の公園の入口に標識設置していただくよう、この請願を採択し、紹介議員九名を代表してお願い申し上げる次第でございます。

なお、引き続き請願第二号について御説明を申し上げます。

昭和五十四年六月十八日付をもつて本議会に提出されました、観光客誘致のための沖の島周辺の整備促進に関する請願書について、紹介議員九名を代表して御説明申し上げるものでございます。本館山市は、南房総国定公園の中心地であり、白砂青松、波静かにして遠浅、鏡ヶ浦の名にしかう内湾随一の海水浴場として、自他ともに許してまいつた国民休養地であります。

しかるに、近時当市の急速な都市化に伴い、河川の汚れは言語に絶し、海水浴場の海底は汚泥により汚染され、ぬるつとした気持ち悪さが身にしみてまいる現状にあるのでありまして、したがって観光客も避暑客等もこれを避けて西進運動を始め、北条より館山に、館山より西の方、鷹の島を抜け沖の島に、さらに西岬方面にきれいな海水浴場を求めて移動している現状にあるのであります。

この現時点におきまして、沖の島周辺はまだまだ汚染度が少なく、水清く魚泳ぎ、自然の形態を持続し、海水浴場として好適の位置にあり、なおロマンの島として都人士に好まれるのもまたむべなりと言ひべきであります。

しかるに、館山市街より沖の島に通ずる道路は凹凸激しく、自動車交通機関とする以外に道のないこの地は、悪路を舗装して行ききに便ならしめることを急務とする現状にあるのでありまして、十九日の通告質問にも同じ趣旨の質疑が取り交わされたのであります。

市当局におかれましては、その必要性を認め、舗装までにいかぬまでも、道路改修に全力を尽くされている実情は高く評価いたしますが、これは一時的のものであり、観光に生活を託する者はその死活問題として取り組まざるを得ない現状であるのでありまして、岸壁の補修、護岸の修復、恒久的な道路の舗装、それに付け加えて駐車場の設置等は一日も早く実現してほしいところであります。関係各省庁に折衝されることを切望している次第であります。

そこで、私はこの請願を採択していただけますよう、紹介者を代表いたしまして切にお願い申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

○議長（石井 正君） 以上で説明は終わりました。

#### 委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては、建設経済委員会に付託をいたします。

延 会 午前十時五十八分延会

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異

議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明二十二日から二十四日まで委員会審査のため休会、次会は六月二十五日午前十時開会といたします。その議事は議案第三十号乃至議案第三十二号等に係る委員長の審査の経過並びに結果の報告、討論、採決いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第三十号乃至議案第三十二号

一、請願第一号及び請願第二号